

1000

密山大日記

陸軍省

昭和九年 第一冊

陸軍省
密大日記
S9~1
5

沖繩縣防務部 第二七八號

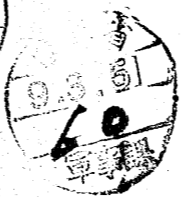
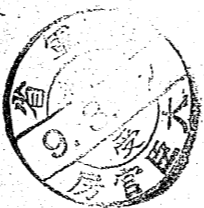
沖繩防備對策送付之件

昭和九年三月二十五日 沖繩縣防務部司令官

陸軍次官 柳川平助殿

本縣防備ニツキ目下別冊防備對策ヲ目標トシ着々其準備ノ
歩ヲ進メツ、有之候。モ基ヨリ小官ノ無ク之カ實行ノ成否ハ一
五司ノ御指導御教示ニ俟ツノ外無之。殊ニ裝備ノ完成内容
ノ充實等當地方經濟ノ現狀ヨリ推シ其筋ノ同情アル哉決
ヲ俟ツヲ要スルモノ尠ナカラス

弁クハ敢テ拙策ヲ奉呈セシ理由ヲ御賢察被下曲ケテ御一
閱ノ上御指導御助勢被下候。ハ小官ノ最モ幸甚トスル處ニ
御座候



別冊二部冊
八番課ニ保存
三月三日 勤員課

目次及要旨	
目次	要旨
概説	重要性ト縣民ノ防衛參加ノ必要
第一現狀	
其一住民	事大思想、依頼心、隋弱、犧牲團結ノ美風乏シ
其二地形	海上交通通信ハ杜絶、恐アリ、各島共防備上弱矣アリ
第二防備ニ關スル研究	
其一防備爲所要人員	平時ヨリ完全ナル準備アルヲ必要トス
其二義勇隊編成私案	地方別部隊數ト所要兵器數
第三防備ニ關スル施設現狀	
其一小官着任當時現狀	政黨ニ熱中シ人ノ縣人自ラ立テテ國防ノ要ヲ稱スルモノ ナシ共產黨事件アリ村治放棄アリ八重山ノ義勇軍編成
其二其後ノ經過	國防研究會、海軍機、獻納、陸軍後國兵器、獻納

<p>第四對策私安本</p>	<p>及ニ保管共產黨ノ解消政治ノ緩和加特敵問題</p>
<p>其一思想敬言察確立掌握</p>	<p>憲兵設置ト軍事敬言察思想敬言察</p>
<p>其二國防思想普及徹底</p>	<p>型ヨリ入ル如クスル要アリ</p>
<p>其三義勇隊ノ編成</p>	<p>指導ニテ速ニ編成セシク地方毎ニ其實情ト地形ニ 適スル如ク編成シ之ヲ統一ス</p>
<p>其四武装ノ整備</p>	<p>兵器中央集中保管倉庫動員兵器ノ平時保管彈 藥ノ平時格納義勇隊用兵器ノ新設要領</p>
<p>其五交通產業ノ指導</p>	<p>本島ノ用兵上必要ナル幹線ノ完成產業ヲ自給自 足ヲ目標トシ指導</p>
<p>其六指導ノ統一</p>	<p>必要ナル所以郷軍士訓ヲ主体トスル義勇隊ノ 掌握中等學校上級生ノ指導各機關ノ統一</p>

料

ノ米沢作

年

月

日

極秘

昭和九年一月稿

沖繩防備對策

沖繩聯隊區司令官 石井虎雄

ノ防備ノ概説

概説

無防備ノ我沖繩ハ長大ナル區域ニ且リ西南海上ニ羅列シ防備嚴タル臺灣ト奄美大島間ヲ連絡シ太平洋ト支那海間ノ障壁ヲナス重要ナル地位ニ在リ主要島タル沖繩本島、宮古、八重山（石垣及西表）概テ百哩以上ヲ間シテ存シ各島概テ一ノ重要ナル泊地ヲ有スルコト附圖ノ如シ之ヲ以テ兩海ヲ遮断スルノ鐵柵ヲ用フル素ヨリ望々所ナルモ海軍ノ大兵力ヲ用フルニアラサレハ如何トモスル能ハサル所ナリ其ノ完壁ハ期シ得サル迄モ此等ノ重要諸島ニシテ確保セラレアル間ハ尙嚴トシテ障壁ノ任ヲ完フシ得ヘント雖モ其ノ一島ニテモ敵手ニ歸シ然ラサルモ一泊地ニテ

モ其ノ利用ニ屬センカ此ノ一大破孔ヲ 構成シ
 不利殆ト計ルヘカラサルモノアリ
 大洋交通ノ重要ナルハ言ヲ俟タス米支西國
 ノ現狀ト共匪軍ノ南中支橫斷ノ現狀トハ更ニ
 其ノ重要性ヲ倍加シアリ本列島地方カ西洋
 交通ノ要路ニ當ルハ在年露國第一東洋艦
 隊カ沖繩本島宮古間ヲ突破シテ支那海ニ入
 ルルヲ見ルモ明ナリ而シテ帝國陸海軍ノ現狀
 ハ到底此等ノ地方ニカヲ分ツ能ハサルコト亦已
 ヲヲ得サル所ナルヘシ故ニ少クモ海面以外ノ
 防備ハ住民自ラ之ヲ負擔スルノ必要ナル論ヲ
 俟タサル所ニシテ萬一幸ニ陸軍ノ一部使用セ
 ラルトスルモ若干期日迄ハ住民ノ力ニヨルヲ要ス

ヘク爾後ニ於テモ陸軍ト協力事ニ當ルコト絶對ニ
 必要ナリ
 然ルニ右ノ重大ナル任務ヲ負擔スヘキ地方ノ現
 狀ハ如何 今其ノ重要ナル一ニ矣ニツキ左ニ之ヲ
 略説スヘシ

第一現狀

其一住民

防備ノ如何カ人ニヨリ其價值ヲ左右スルコト論ナ
 シ殊ニ隔絶セル孤島ニ於テハ其關スル所全ク絶對
 的ノモノニシテ住民ノ意氣特ニ國民タル自覺ノ如
 何ニヨリ決定セララルヘキモノト云フヲ得ヘシ然ルニ
 本地方ニ於テハ他地方ニ比較シ左ニ掲ル如キ著シ
 キ欠矣アリ強ヒテ美矣トシテ譽ヲ得ヘク

シハ柔順ニシテ克ク困苦久乏ニ耐ヘ強大ナル絶制下ニ於テハ意外ニ大事ヲ決行シ得ルニアリ

一、愛ノ最大ナルハ事大思想ナリ

現時國家意識進ミ愛國熱昂リタルハ喜フヘキ現象ナリト雖モ其程度タルヤ他地方ニ比スヘクモアラス熱ニ易キ南國ノ風カ表面一時的ニ華カナルカ如クナルモ其サヘモ尚他地方ニ及ハス一、度其ノ内容ニツキ檢討センカ實ニ恩ニ中ニ過クルモノナシトセス有識者ヲ以テ自ラ任スルモノニシテ全ク英米蘇支ノ現狀ヲ知ラサル如キ青訓生ニシテ自己ノ村ヨリ出征者ヲ出シアルニ關セス第六師團ノ

滿洲出動ノ如何ヲモ知ラサルカ如キ決シテ珍トスルニ足ラサル現狀ナリ其因テ來ル故ナキニアラス

沖繩カ名實共ニ帝國ノ一部トナリレハ極メテ近代ノコトニシテ日清戰役當時ニ於テモ縣内ハ日清兩黨ニ分レテ相争ヒ清國側ヲ支持スルモノハ矮小日本何スルモノソ必スヤ大清ノ一戰ヲ敗ニシテ黃龍旗ヲ那霸港頭ニ翻ルハ旬日ノ後ニアリト信セルヲ想起セハ其真相ヲ判断スルヲ得ヘク此等ノ人士中ニハ今尚ホ健在者少ナカラス此等ノ思想ヲ少年時代深ク腦裏ニ印セラレタル者ハ即チ現代ノ支配階級ナリ

事大思想ハ日本ノ強大ト共ニ総テラ大和
化セルモ之ト同時ニ一時的ニモセヨ現實ニ来
ル強壓ニ對シ嚴トシテ必ス操持ス上誰カ
保證シ得ン七百年來西屬事大ノ歴史ハ内
部迄一朝ニシテ清國ニ得ヘキモノニアラサル
ヘシ

ニ依頼心甚ク強ク強シ

縣計画ニヨリ實施セラレツ、アル所謂振興十
五年計画等ニ就キ之ヲ見ルモ殆ント全部ヲ
國庫ノ補助ニ待タントシ國家ノ重大時期ニ
際會シアル結果此等經費削減セララル、ヤ
沖繩ハ自立出來ザルカ如キ悲鳴ヲ擧ケ甚ク
シキハ之ヲ以テ惡政呼ハリヲナシ人心ノ向背

一ニ補助ノ多寡ニヨリ定マルト云フモ過言ニア
ラス縣當局ノ統制アリテ初メテ今日ノ狀
態ニ止マルモ若シ人民ノ意ニノミヨリテ統治
セシメンク其結果ハ一向利ニ趨ク結果ニ陷リ
國家ノ興敗全ク眼中ニナレト云フニ至ルニアラ
ス々疑ナキ能ハス故ニ一朝不利ナル情況ノ下
ニ一時的ニモセヨ統治ノ手ヲ腕センカ如何ナル
結果トナルヤハ殆ント想像外ナルヘシ而シテ他
カ本願ノ實狀ハ意想外ニシテ農家ノ厩肥
推肥等有利ナルヲ知ルモ獎勵金ナケレハ實
施セス便所豚小屋ノ改造サヘモ補助ヲ與ヘサ
レハ行ハス共々レキ地方ニ於テハ小學校ハ勿論
彼等ノ生業タル砂糖製造小屋ノ構築サ

ハモ補助ノ名ヲ以テ全部補助金ニヨリ尚ホ
 不正ノ横領ヲ敢テスルモノ此々皆然リト云
 ヒ度キ現狀ナルヲ以テ喰ハスニ利ヲ以テセ
 ハ其奈邊ニ走ルヤ敢テ隣國ヲ笑フ能ハ
 サルモノナキヤヲ疑ハサルヲ得ス
 三、武装ノ莫ヨリ見ハ殆ト無カナリ
 島津氏ノ本島ヲ領スルヤ其反乱ヲ惧レテ
 一切ノ武器ヲ保存スルヲ禁セシカ爲メ僅カニ
 棒(約六尺)ヲ有スルノミナリシカ其傾向ハ
 其儘現時ニ及ヒ青訓ハ勿論在郷軍人ニ於
 テスラ殆ント全ク銃器ヲ有セス射撃ハ演習
 スルヲ得ス平時畚練、如キ寧口棒切レトモ
 稱スヘキ手製ノ木銃ニヨリ不慮全ナル形ニ

ヲ學フニ過キス民間又銃器ハ勿論力槍ノ存ス
 ルナシ從ツテ有事ノ際如何ナル手伎ヲ以テ
 郷士ヲ防衛スルカハ蓋シ極メテ困難ナル問題
 ナリ

四、般ニ情弱ナリ

南國暑熱ノ地一般ニ遊惰ノ風アルハ多クハ天
 産ニ豊ニシテ~~重~~衣食ニ窮セサルニ因
 スルモ本地方ハ蘇鐵地獄ヲ唱ヘテ他ノ救助
 ヲ叫ヒナカラ真劍ニ苦困ヲ突破スヘキ意氣
 ナシ某氏ノ研究ニヨレハ農民トシテ勤勉ナリ
 ト目セラル、國頭郡地方ニ於テスラ勤農家ト
 目セラル、モノ、一日平均労働時間ハ三時間ニ
 過キス土地廣ク天産豊ナルハ重山ニ於テハ其ノ

指導者ノ口ヨリ全農民カ一日平均一時間ニテ
 モ真剣ニ労働セハ云々トノ歎聲ヲ聞キタルコ
 トアリ一般ヲ察スルニ難カラス尚更ニ青年男
 女ヲ毒スヘキ一大弊風アリ當地ニ於テ一年ノ大
 部ヲ占ムル夏季ヲ通シモ遊ト方フモノ行ハル
 日没食事後三三五五相推乃ヘテ部落附近ノ
 林空又ハ草地ニ會シ男女青年相交リテ蛇味線
 ニ和シテ歌ヒ且舞ヒテ夜半ヲ過キ多クハ三時
 三時ニ至リテ止テ歌舞ニ飽キタルモノハ男女相
 携ヘテ暗陰ニ戯シ又ハ相手ノ宅ニ忍ヒテ天明漸
 ク歸ル為メニ起床甚ク遅ク午前八時九時ニ至
 ルヲ普通トス斯ノ如キモノ連日醒ムルモ即チ茶
 籠ヲラサルヲ得ス習ヒ性トナリテ青年團女ノ發

1136

刺タル生息ヲ求ムルモ得ヘカラサルナリ此習風ハ
 十四五歳ヨリ婚時ニ及フ甚クシキハ十二三ニシ
 テ見習フモノアリ此間雜交亂交生育不良操
 志欠乏ノ結果ニ陥ル當然ノ歸着ナリ
 丘時都市出縁ノ青少年ニヨリテ花柳病結
 核等ノ移入セラルヤ全ク漆原ノ火ノ如キ勢ヲ
 以テ蔓延シ更ニ一層身體ヲ蝕ミ情弱ナル今
 日ノ狀況ヲ來セリ最近四五年來此弊風ニ目覺
 メ一部ヲ於テハ極力打破ニカメ改善ノ地方アリ
 ト雖モ未ク大勢ヲ左右スルニ至ラス
 五圍結核性ノ美風ニ乏シ
 本島古來在依ノ士アルヲ聞カス市井又依客
 ナク今日ニ於テモ二人ノ親分ナシ徹底セル個

人主義ニシテ人ノ難ハ捨テ、省ミス富者ニ於テ
 其ノ傾向甚クシキカ如シ
 個人主義ノ最モ徹底セル例ヲ擧クレハ所謂
 糸満漁民ニシテ夫ハ漁リ獲物ハ之ヲ婦女子
 ニ賣リテ利ヲ營々買主ハ自己ノ妻タルト然ラ
 サルトヲ撰ハス婦女子ハ之ヲ町ニ賣リテ利ヲ
 求メ各私有ノ財産トス男鬼ノ為ニハ父其ノ
 取ヲ分チ女子ノ為ニハ母資本ヲ與ヘテ漁獲
 物ノ賣買ニヨリ營利セシム三山争鬭ノ昔ハ
 問ハサルモ西屬關係下ニ在リシ沖繩ハ民心モ
 亦兩分互ニ相疑ヒテ一致スルコトナク日清戰役
 時ニ於テサヘ日清兩派ニ分レタルコト既説ノ
 如シ根底深キ此ノ分離ハ聖代ニ及ヒ一般選

擧法ノ採用セラハ、ニ至リ一層甚クシク其ノ利
 己的根元ハ政界ノ腐敗ニ伴ヒ極度ニ增長シ
 大ハ縣營ノ大事業ヨリ小ハ雇傭人ノ採否町
 村小委員ノ選舉ニ至ルマテ横領買収ノ行ハ
 レサルナク從ツテ此等不正ノ利得ヲ廻リテ親
 族兄弟ト雖モ集散離合常ナク相信セサル
 コト仇敵ノ如キサヘアリ況シヤ他人ニ於テオマ
 右ノ如クナルヲ以テ難ニ當リ協力郷士ヲ防衛
 スルカ如キ現状ニ於テハ到底望ムヘカラス國
 難來ルノ時果シテ如何ニ防備ノ途ヲ講ス
 ヘキカ

其二地形

沖繩ノ國防上ノ價值極メテ重要ナルニ拘ラス其

地形ハ防備上幾多ノ缺陷ヲ有シ少数軍隊ヲ以テハ其ノ防備困難ナルノミナラス國軍作戰ノ全局上其少數軍隊トテモ最少限ヲ以テ甘んズルノ外ナカルヘク且其到着迄ハ殆ト無防備ノ状態ニ本シアルヲ以テ勢在郷軍人ヲ主力トスル島民自ラノ力ニ據リ防備スルノ外ナキハ概説ニ述フルカ如シ之カ爲ニハ地形上ノ此缺陷ノ幾分ニテモ補填スヘキ施設少クモ防備ニ必要ナル兵器ノ一部ヲ平時ヨリ備フル如キ手段ヲ構スルハ絶對的緊要事ナリトス以下地形上ノ缺陷ニ就テ述フル所アラントス

一 主要ナル嶋嶼ハ海上概ネ百海里以上ヲ隔ツルニ群ヨリ成リ相互救援甚ク困難ナ

リ沖繩本島宮古群島間約一七〇海里宮古群島八重山群島間約九〇海里ヲ隔テ適時沖繩正海定期航路ノ汽船(大阪那霸間)三千噸級鹿兒島那霸間及ニ那霸基隆間各ニ千噸級ノヲ以テ救援シ得ルモノトスルモ那霸宮古間十七時間宮古八重山間十時間ヲ要シ而カモ夏本ニ於テハ颱風冬本ニ於テハ季節風ノ發生ニ依リ航海時間著シク延長スルカ若クハ交通全ク阻絶スルコト屢ナリトス況ニヤ我艦隊ノ制海威力十分ナラサル場合ヲ顧慮スルハ相互救援ノ如キハ殆ト期待シ得ス殊ニ通信機關ノ現状ヲ見ルニ本島八重山間八重山宮古間ニ海底電線

本島 = 無線通信所、本島及ヒ八重山島 = 氣象無線通信所ヲ有スルモ以上ノ如ク制海威力十分ナラサル場合 = アリテハ海底線ハ勿論無線通信所ノ如キモ何レモ海上射撃ヨリノ好目標ヲ呈シアルヲ以テ直ニ通信阻絶スルモノト豫期セサル可カラサルヘク從テ他群島ノ情况ヲ適時知得スルコトモ困難ナル場合多キヲ豫想セサル可カラサルニ於テ各群島各個獨立防衛ノ要益々大ナルモノト謂ハサル可カラス

ニ主ナル群島 = ハ各艦船ノ碇泊地及ヒ飛行場候補地ヲ有シ其ノ一群島 = テモ一度敵ノ占據 = 委センカ直ニ他群島防備ハ多大ノ弱矣ヲ生スルニ至ルヘシ

碇泊地及ヒ飛行場候補地ノ狀況附圖ノ如ク一度敵 = レテ群島ノ一 = 占據センカ太平洋支那海中間ノ防壁 = 破缺ヲ生スルハ概説 = 述フルカ如クナルモ此情況ハ同時ニ沖繩ノ防備共モノヨリ見ルモ敵飛行機及艦船ノ根據地ヲ海上近距離 = 有スルニ於テ敵機ノ攻撃及ヒ敵軍隊ノ上陸ハ極メテ容易トナリ各群島ノ防備ハ著シク薄弱ナルニ至ルハ論ヲ俟タサルヘシ即チ前項 = 述ヘシ各群島ノ各個獨立防衛ハ各群島共ニ健在スルニ於テ克ク堅固ナル連鎖ヲ形成シ益々鞏固ナルモノト謂フヘシ

ニ主ナル群島ハ何レモ地形其他ノ關係ニ於テ

防備上大ナル弱矣ヲ有ス
 各群島ハ周邊概テ珊瑚礁ヨリ成リ海岸
 ハ石花礁ヲ以テ蔽ハレ且海岸線ノ屈曲比
 較的少ナキヲ以テ大觀スレハ敵ノ上陸行動
 =便ナラスト雖モ仔細ニ觀察スレハ附圖ニ示
 ス如ク各群島共ニ四周海岸各所ニ上陸
 点ヲ求ムルコト必スシモ困難ナラス縱令各
 郡島主碇泊地ニ防備施設ヲ完成シタル後
 於テモ其背面地帯ヨリノ上陸可能ナリトス
 又交通機關ノ發達幼稚ニテ近時道路ノ
 増築漸ク多キニ至リタルモ沖繩本島以外
 =アリテハ其有スル自動車殆ト數フルニ足ラ
 サルノ状態ナルヲ以テ交通機關ニ依ル隨

時迅速ナル兵力ノ異動ハ極メテ困難ナルヘク
 且沖繩本島ヲ除キテハ叢爾タル小島ナル
 =拘ラス地形比較的サ茫漠トシテ小兵力ヲ以テスル
 高地防禦ニ適スル陣地ヲ求メ難ク況ンヤ隘員
 概シテ四里ヲ超ニス海上ヨリノ砲撃ニ對シ
 テハ殆ント暴露スルノ状態ナルニ於テ其ノ防
 備ハ極メテ困難ナリト謂ハサル可カラス加シ
 ルニ各群島共所産ノ食糧ハ以テ自給自
 足スルニ足ラサルノ現状ハ益々之ヲ倍狹ス
 ルモノトス
 尚沖繩本島ノ情況ニ就キテハ以下更ニ
 述フル所アラントス
 各群島中ノ主島タル沖繩本島ハ其形

狀南北 = 長ク (約三十里) 東西 = 狭ク (六里以下) 且幅員二里以下ノ地峽部数ヶ所 = 存ス敵ノ為比較的的大部隊ノ上陸可能ナル地矣ハ各方面 = 求メ得ヘク交通機關ハ南方約三分ノ一ノ部分 = 鐵道ヲ有シ又自動車ヲ通スル道路ハ南半部 = 於テハ東西海岸 = 沿ヒテ南北 = 各線各一線ヲ有シ内部 = 於テモ比較的良ク發達シアルモ北半部 = 於テハ西海岸 = 沿ヒ一條ノ幹線ヲ有スルモ東海岸 = 沿ヒ之ヲ有セサルミナラス東西海岸ヲ連スルモ比較的少シ自動車ハ目下約八〇臺ヲ有シ通信機關ハ電信及ヒ電話概不全區域 = 巨ル之ヲ以テ如上道路網ノ範圍内 = 於テハ克ク急速赴援ノ可能性アルカ如キモ

其南北 = 通スルモノハ殆ト海岸線ナルヲ以テ敵ノ為交通阻害ヲ受クルノ公算大ナルニ想到セサルヘカラス地形以上ノ如ク狭長ニシテ北部ハ山地南部ハ丘阜地ナルヲ以テ處處高部防禦ノ為メ好陣地ヲ有シテ防衛 = 通スル如キモ何レモ海面 = 暴露スルノ害亦大ナルモノアリ以上ノ如ク沖繩本島ノ防衛ハ少数軍隊ヲ以テ通時各方面 = 赴援シテ目的ヲ達成スルニト困難ニシテ各地毎ニ徹頭徹尾在郷軍人獨自ノ力 = 依リ防衛スルカ若クハ軍隊ノ來援スル迄在郷軍人ノ力 = 依リ持久ノ目的ヲ達成スル如ク企畫スルヲ要ス

第一防備ニ關スル研究

其一防備ノ為ノ所要人員

以上説述スル如ク本島守備ノ重要地矣カ假令
軍隊ニ於テ實施セラレ、場合ニ於テモ當初若
于期間及軍隊到着後ニ於ケル補助的勤務
並ニ軍隊ノカ及ハサル廣地域ノ防衛ハ當然地
方民ノカニ俟タサルヘカラサルヲ以テ隊メ其所要
人員ヲ研究シ有事ノ日ニ備ヘサルヘカラス、而シ
テ其編成ハ緩急發生ノ當初最モ必要ニシテ
之ヲ以テ人心ヲ安定シ事大主義惡弊ノヲ
芽ヲ未然ニ抑壓スルニト極メテ必要ナリ故ニ
命令一下全縣下ヲ通シテ一齊ニ其準備ヲ整
ヘ得ル如クナルヲ要ス

其兵力ハ多ク益ム可ナリト雖モ一方産業ニ對ス
ル配當勞力ハ島内人民自給ノ永續ヲ顧慮スル
トキ青年壯年ノ大部ハ危儉ニ暴路ニツキ、生業ニ
從事セシムルノ要アルヲ以テ最少限度ニテ満足セサ
ルヘカラス

今試ニ一案ヲ提起ス

其二沖繩防備義勇隊編成私案

別表ノ如シ

沖繩防備義勇隊編成私案

編成ノルキニ
 一 海岸ハ監視ニ止メ部落民ノ安定ヲ期スル為メ海岸重要部落ニハ小部隊ヲ配置シ己ウヲ得サルモ小部隊ヲ以テ監視ス
 二 隊期ニ得ル上陸兵ニハ其要度ニ應ジテ備入ハ監視ノ為メ特ニ小部隊ヲ配置ス
 三 用兵ノ便否ニヨリ縣内ヲ若干地區ニ區分シ各地區毎ニ隊備隊ヲ設ケ敵ノ上陸破砕ニ任セシム
 四 沖繩本島ニハ別ニ總隊備隊ヲ設置シ迅速ナル交通機關ヲ配置シテ隨時所要ノ地區ニ進出シテ地區隊ヲ増加シ敵ノ占據ニ先テ之ヲ殲滅ス
 五 第一第二項ニ屬スルモノハ概ネ三交代トシ服務者ノ少クモ半數ハ武裝セシム第三第四項ニ屬スルモノハ常時服務トシ全部武裝セシム

地區名	海岸監視隊		上陸兵守備隊		地區隊備隊		計	所要兵器	摘要
	部隊	所要兵器	部隊	所要兵器	部隊	所要兵器			
國頭半島	一中隊	六〇			二小隊	一四〇	二〇〇		
本部半島	二中隊	七〇	二小隊	六〇	二中隊	四〇〇	五三〇	背面及ヒ行江島ヲ含ム	
金武灣	一中隊	四〇	一小隊	三〇	一中隊	二〇〇	二七〇	背面ヲ含ム	
中城灣	二中隊	七〇	二中隊	一五〇	三中隊	六〇〇	八二〇	背面及津堅久高島ヲ含ム	
島尻半島	二中隊	七〇	一小隊	三〇	四中隊 隊備隊	八〇〇	九〇〇		
宮古	二中隊	七〇	一中隊	一〇〇	一中隊	二〇〇	三七〇	行良部ヲ含ム	
八重山	二中隊	七〇	二中隊	二〇〇	一中隊	二〇〇	四七〇	石垣竹富西木等	
計	二中隊	四一〇	六中隊 一小隊	四七〇	二二中隊 二小隊	三二〇〇	三四二〇		

備

以上ノ唯本縣防備ノ大綱ニツキ攷究セルモノナラモ尙左記ノ如キ幾多ノ直接配入必要ナル地矣アリテ上ノ部隊ハ到底充分ニ其要求ヲ充シ得ヘキモノニアラス
 一 縣内直接配入所要ノ重要地矣飛行場ハ臨時使用シ得ヘキ着陸場(要圖参照)
 二 既設飛行場
 三 臨時着陸場候補地
 四 無線電信所(氣象無線共)
 五 海底電信陸揚場
 六 發電所
 七 水道要地
 八 國庫及金庫
 九 地方廳及軍衙
 一〇 燈臺
 一一 重要電信局
 一二 重要電線
 一三 那霸港

考	八。港
	一。
	三
	四
	三
	二
	四
	四
	八
	五
	三